

「聞き書き」の世界へ

ようこそ





日本は、森の国。

面積の約7割は、森林がおおっています。

日本は、島の国。

その連なりは、南北およそ3500キロ。

周囲を海に囲まれています。

その地域の気候や風土に応じて、  
さまざまな暮らしの知恵や工夫があります。



我々の仕事は、  
木と話をせんことには、  
始まりません。



未だに一年生よ。  
今、六十八じゃけど、  
一生修行じゃとおもうとる。

火入れのときは、

山の神様にお願いですっと。



目には見えんけど、

山の神様はちゃんとおる。

# 真庭なりわい塾

真庭市北房地区





「聞き書き」は、人生の大先輩と出会い、

その生きかたや働きかたを

「丸ごと」受け止める作業です。

そして人生の大半を費やすのは「仕事」。

話し手の「仕事」を中心に話を聞いてみよう。



「聞き書き」の基本は  
「聞く」というコミュニケーションです。

その人のご自宅や仕事を訪ねて  
聞いてみよう。

知りたい、理解したいと思っている人がいるからこそ、  
名人は語りはじめます。



対話はすべて録音し、  
一字一句、書き起こします。

人にはそれぞれ異なる人生があり、  
長い道のりを歩んできたからこそ、語れる言葉があります。

その人の語り口を生かした、  
「一人語り」の作品に仕上げましょう。



原木栽培ってのはまず木を伐ってこなければ商売にはならない。

私は十六歳の時から、木を伐ることを仕込まれてきたから、パーっと一目見れば、ここは椎茸のできる場所だとわかる。

長年の経験でね。

ある時、山に行ってみると、椎茸の胞子が一面に飛んで山の中に霧がかかったようになってね。今までの人生で二、三回ぐらいしか見たことないけど、それはそれは見事で、めったに味わえない喜びだね。

そして春先の最盛期、どの木からも椎茸がいっぱい発生している、そういう姿を見ると、やってきた生きがいつてのを感じるね。



はじめて聞く仕事、  
知らない地域、  
会ったことがない相手。

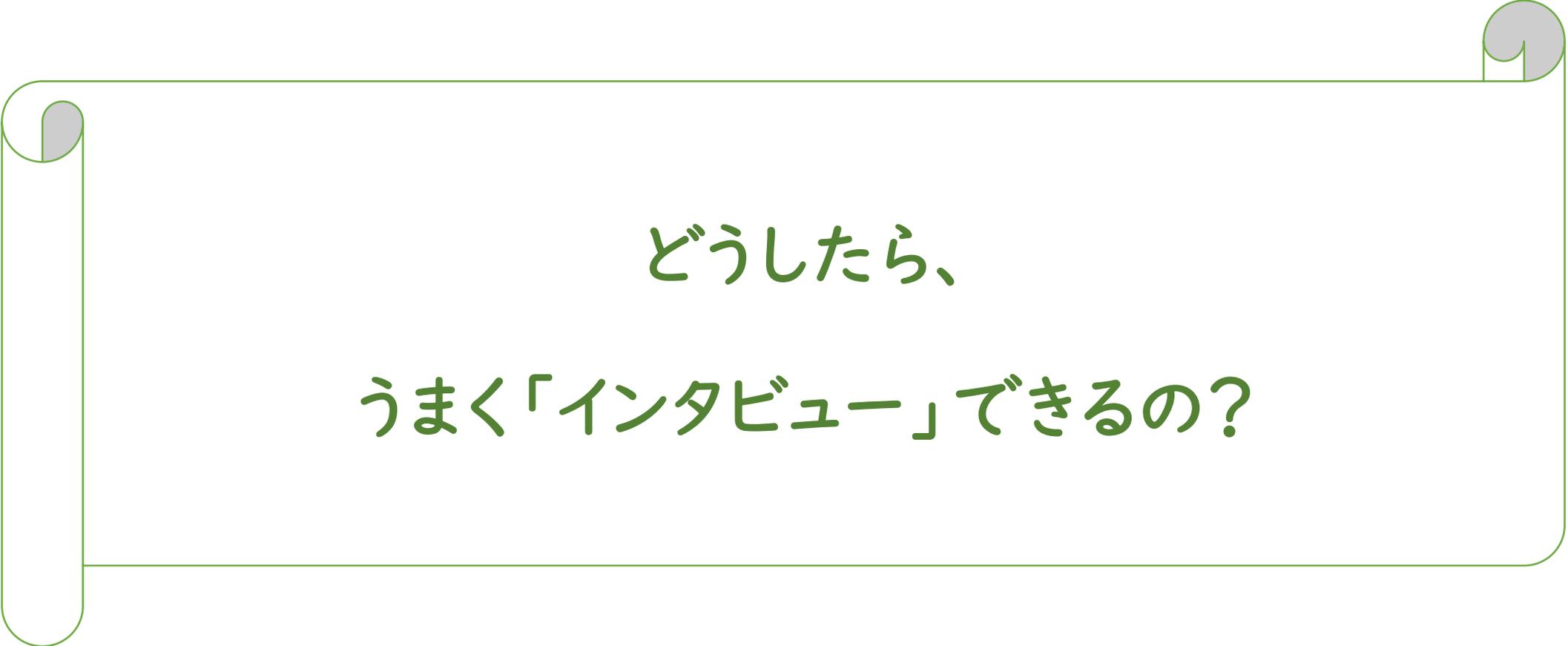
「聞き書き」は、未知にあふれています。

わからないことは恥ずかしいことではありません。



「聞き書き」をしてみよう





どうしたら、  
うまく「インタビュー」できるの？

## こんな質問はどうか？

~~仕事のやりがいは何ですか。~~

~~一番、うれしかったことは何ですか。~~

~~一番、つらかったことは何ですか。~~

漠然とした質問、  
答えられない質問は、  
しない。

# 「5W1H」を意識しよう!

いつ?

なぜ?

どこで?

どのように?

誰が?

何を?

話の中から、  
そのときの「映像」を  
思い浮かべることが  
できるように!

## こんな答えは要注意!

「仕事はいろいろある」

→ どんな作業があるの?

「大きな機械を使うだ」

→ どのくらい大ききさなの?

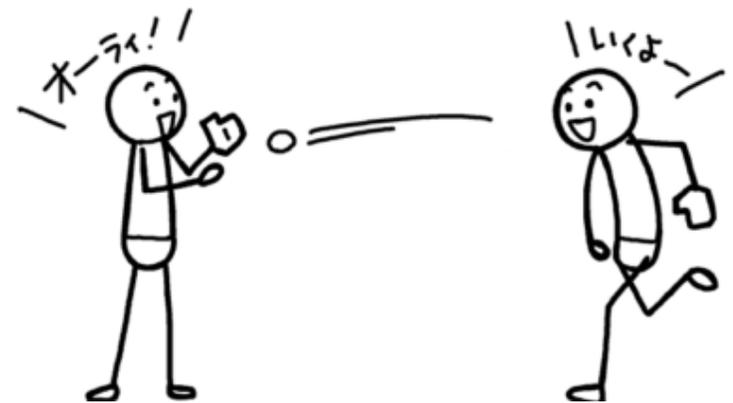
「毎日大変なんだよね」

→ 何が大変なの?

# 言葉のキャッチボールをしよう!

インタビューするときに大切なのは、  
対話(言葉のキャッチボール)をすること。  
話の広がりも、深さも、質問の仕方しだいです。

投げるボールの角度を少し変えると  
思わぬ答えが返ってくるかもしれません。



## 「わかったつもり」にならない

「わかったつもり」になったとたん、質問ができなくなる。

「わかったつもり」になったときは、実は誤解も多い。

思いこみを捨てよう。

「聞いた」だけでは終わらない



# 新潟県村上市高根



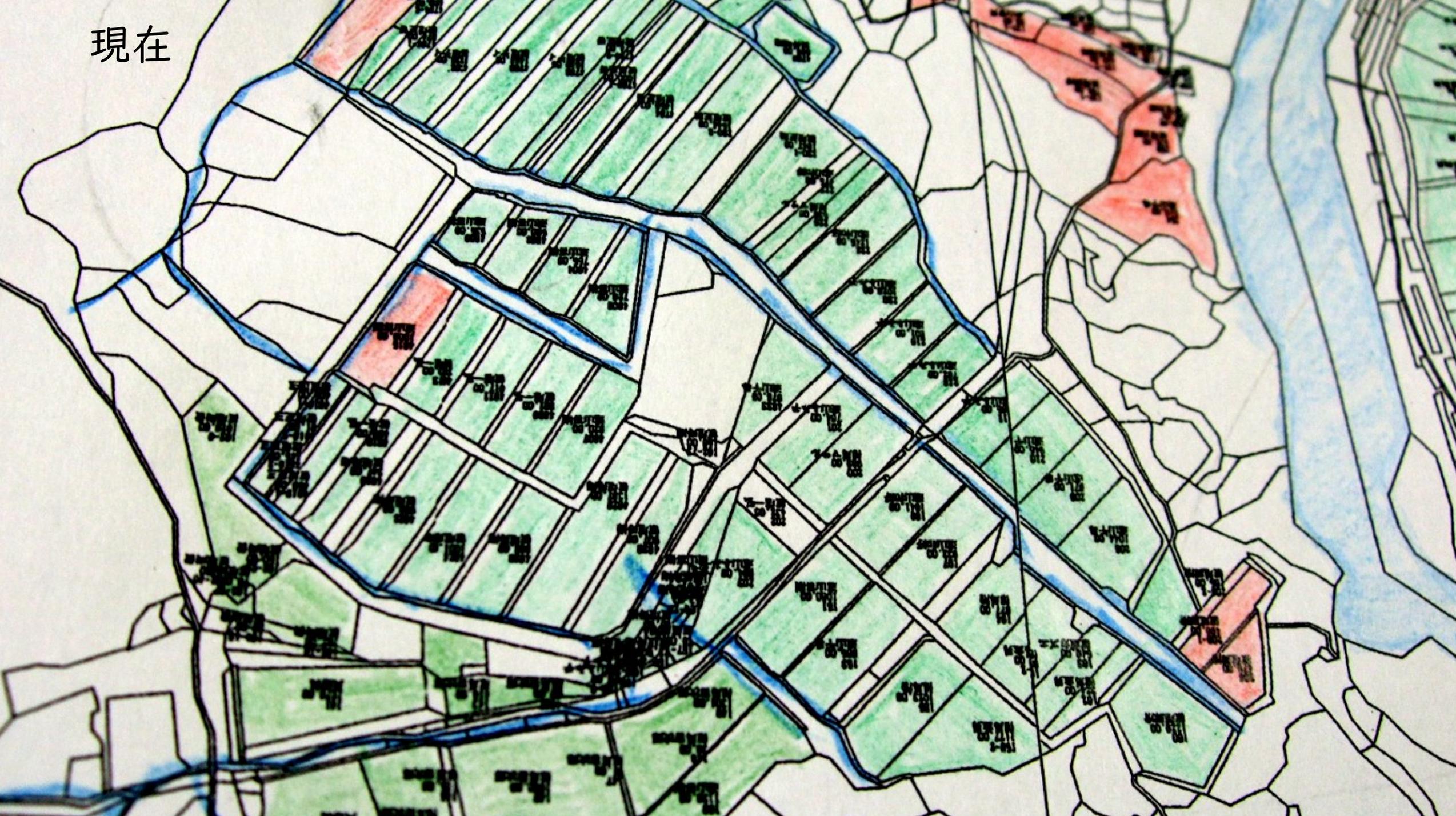




# 10年後の棚田マップ



現在



10年後



# 高根の棚田の10年後

全体の約3分の1が耕作放棄地に

1750人分のお米はもう作れません！



# 都道府県別食料自給率

北海道	195	東京	1	滋賀	51	香川	36
青森	118	神奈川	3	京都	13	愛媛	37
岩手	105	山梨	20	大阪	2	高知	45
宮城	79	長野	53	兵庫	16	福岡	19
秋田	174	静岡	18	奈良	15	佐賀	67
山形	132	新潟	99	和歌山	29	長崎	38
福島	83	富山	76	鳥取	60	熊本	56
茨城	70	石川	49	島根	63	大分	44
栃木	72	福井	65	岡山	39	宮崎	65
群馬	34	岐阜	25	広島	23	鹿児島	85
埼玉	11	愛知	13	山口	31	沖縄	28
千葉	28	三重	44	徳島	45	全国	39

## <質問>

日本で、農業に従事している人の平均年齢は何歳でしょう？

① 58 歳

② 68 歳

③ 78 歳





(結城登美雄氏の資料より)





自然は寂しい

けれど、人の手が加わると、

あたたかくなる。

宮本 常一





# 「聞き手」の力

今しか聞けない話がある。

あなたにしか聞けない話がある。

その人のどこに光を当てるかによって、

その人の見え方は変わってくる。

風景も、暮らしも、歴史も「人」によってつくられる。

唯一無二の人生に寄り添って、丁寧に話を聞こう。



# 作品をまとめる



## 録音したデータを書き起こす



原稿用紙1枚(400字)が、およそ2分間の話。

3時間、話を聞くと・・・？ 原稿用紙90枚になる。

できるだけ、パソコンで作業する。

書き起こしした最初のデータと、整理したデータは両方保存する。

(上書き保存はしないように！！)

# 書き起こし専用の「無料ソフト」を使うと便利

## 【主な無料ソフト】

テープ起こしプレイヤー (Windows用)

Okoshiyasu2 (Windows用)

Casual Transcriber (MAC用)

## 【主な機能】

- ・再生・停止、巻き戻し/早送りができる
- ・再生スピードや音質を調整できる
- ・ノイズを軽減できる
- ・ワード画面の前面に「操作パネル」を表示できる



Q 原木しいたけをつくるには、まず、はじめに何をするんですか？

A. まず木を伐ってこなければ、商売にはならないね。

Q. 椎茸は、どんな場所で栽培するんですか。

A. 私は十六歳の時から、木を伐ることを仕込まれてきたから、

パーっと一目見れば、ここは椎茸のできるの場所だとわかる。

長年の経験でね。

原木栽培ってのはまず木を伐ってこなければ商売にはならない。

私は十六歳の時から、木を伐ることを仕込まれてきたから、パーっと一目見れば、ここは椎茸のできるの場所だとわかる。

長年の経験だね。

ある時、山に行ってみると、椎茸の胞子が一面に飛んで山の中に霧がかかったようになってね。今までの人生で二、三回ぐらいしか見たことないけど、それはそれは見事で、めったに味わえない喜びだね。

そして春先の最盛期、どの木からも椎茸がいっぱい発生している、そういう姿を見ると、やってきた生きがいつてのを感じるね。

## 文章整理の例

Q 「森林組合で働きはじめたのは、何歳のときですか」

A 「えーと、そうねえ。22歳のときだったと思います。  
父も、森林組合に勤めていたんですよね。  
だからでしょうかねえ。母は、とても喜んでくれました。  
お父さんの志を継いでくれたと思ったんでしょうね」

→私は22歳のときに、森林組合で働きはじめました。  
父も森林組合に勤めていたので、その志を継いでくれたと  
母は思ったのでしょうか。とても喜んでくれました。

## 基本的な考え方

「語り口調」を生かしながら、読みやすくまとめる。

繰り返しや言い淀み（あのう、えーと等）は削除し、  
主語がない等の場合は補う。

指示語（こそあど言葉）は、具体的な名詞に置き換える。

趣旨は曲げずに第三者が読んでも、わかる作品に。

## 作品を構成を考える

「冒頭」には必ず、話し手の言葉で「自己紹介」を入れる  
(名前、生年月日、年齢、職業、出身地、家族など)

「起承転結」を考えて、話の順序を整理する

どの話題からスタートし、どう展開し、何を最後にもってくるか。

話し手、そしてあなたが(読者に)伝えたいことは何か。

共感したことや大切なことを、どうすれば、わかりやすく読者に伝えられるか。よく考えてまとめましょう。

※話した通りの順序で、作品をまとめる必要はありません。

タイトルをつける

良い種は栄える 一杉の種採り名人ー

名前を入れる

小見出しをつける

話し手 ○○○○

聞き手 ○○・○○・○○

いたずらっ子時代

私の名前は杉本充です。昭和5年9月6日生まれですから、今年で88歳になりました。奈良県川上村で生まれ育ちました。生家は山の中腹で、子どものときは、もっぱら山に入って遊んでいました。崖から木に飛び移ったり、川に飛び込んだり。冒険好きのいたずらっ子でした。……

作品の冒頭には、名前、生年月日、年齢、職業など、その人に関する基本的な情報を入れる。

本文：5000字程度

必ず最後に「感想」を添える  
(代表者が書く)

# 作品が完成したら、話し手に内容を確認

聞き書きは、その人が生きてきた証。

本人が記録に残したくない内容は、削除する。

「話し手」と「聞き手」の信頼関係が大切。

# 作品の提出方法

## ■書き起こしをする（各自）

※本日完了！？（‘終わっていない人は、10/2までにリーダーに提出）

## ■データのとりまとめ（リーダー）

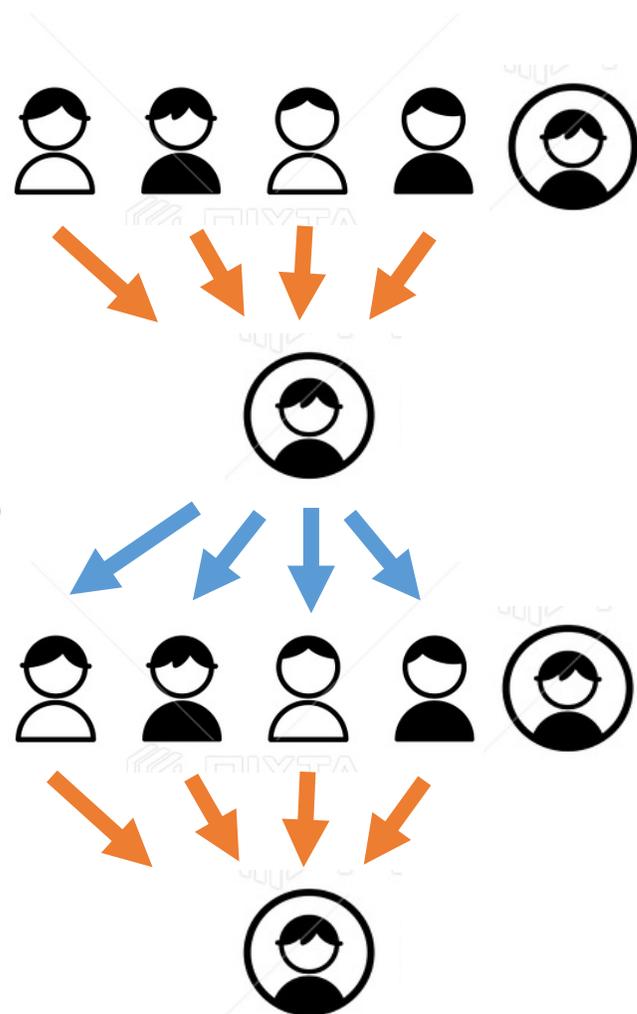
※本日完了！？（揃わない場合は、10/10までにメンバーと事務局にメール）

## ■作品のとりまとめ（各自）

※11/10までにリーダーに提出  
（必要に応じて11月講座で相談）

## ■作品の提出（リーダー）

※12/8までに事務局に提出



※インタビューの録音を分担して、書き起こしたデータ（ワード文書）をリーダー提出する。

※リーダーは、提出されたデータ（ワード文書）を順番とおりにつなげ、一つのデータにし、メンバー全員と事務局宛にメールする。

※リーダーから届いたデータを各自で整理して作品をつくり、リーダーに提出する。  
（タイトルや小見出しもつける）

※リーダーは、各自の作品を読み、一つにまとめて事務局に提出する。  
（最も良い作品を選ぶ、あるいは各自の作品の良い部分を活かして一つの作品にまとめて提出する）

※事務局が内容を確認し、印刷する